

デフリンピックとは

デフリンピック

身体障害者のオリンピック「パラリンピック」に対し「デフリンピック(Deaflympics)」は、ろう者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されています。障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のための国際的なスポーツ大会であり、また参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。

なお、デフリンピックへの参加資格は、音声の聞き取りを補助するために装用する補聴器や人工内耳の体外バーツ等(以下「補聴器等」という)をはずした裸耳状態で、聴力損失が55デシベルを超えてる聴覚障害者で、各国のろう者スポーツ協会に登録している者とされています。また、競技会場に入ったら練習時間か試合時間が関係なく、補聴器等を装用することは禁止されています。これは、選手同士が耳の聞こえない立場でプレーするという公平性の観点によるものです。(国際ろう者スポーツ委員会 オージオグラムに関する規則 2. 参加資格に関する規則 第2.1版 改訂版-2009年11月13日第1.0版公開-2001年7月31日 ※一般財団法人全日本ろうあ連盟:訳)

デフリンピックを運営する組織は、国際ろう者スポーツ委員会(International Committee of sports for the Deaf)で、1924年の設立以来、デフリンピックやろう者世界選手権大会の開催、そして各国のろう者スポーツの振興など、着実な取り組みを続けています。現在の加盟国は94カ国です。

パラリンピックとデフリンピック

国際パラリンピック委員会(International Paralympic Committee)が1989年に発足した当時は、国際ろう者スポーツ委員会も加盟していましたが、デフリンピックの独創性を追求するために、1995年に組織を離れました。そのために、パラリンピックにろう者が参加できない状況が続いています。なお、デフリンピックの独創性とは、コミュニケーション全てが国際手話によって行われ、競技はスタートの音や審判の声による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同じルールで運営される点にあります。また、パラリンピックがリハビリテーション重視の考えで始まったのに対し、デフリンピックはろう者仲間での記録重視の考えで始まっています。しかし、現在は両方とも障害の存在を認めた上で競技における「卓越性」を追求する考えに転換しています。

ろう者のコミュニケーション 国際手話



デフ



オリンピック



夢



「デフリンピックに参加する世界中のろう者は主として国際手話を使ってコミュニケーションを図ります。各国の手話はそれぞれ歴史があって違いますので、国際交流の中で世界中に通じる手話が作られてきました。ここに紹介する手話は『デフリンピックは夢を育てる』です。モデルはデフリンピック出場を目指して頑張っている卓球競技の上田萌さん(東京都)です。」

デフリンピックのロゴマーク

ろう者のデザイナー、ラルフ・フェルナンデス (Ralph Fernandez) 作で、国際的なろう者スポーツのコミュニティのポジティブでパワフルなシンボルです。「手話」「ろう文化」「結束と継続」といった強い要素がこのロゴマークに集約されています。

手の形が「OK」「GOOD」「GREAT」を意味するサインが重ねられており、それはまた「デフリンピック」の手話を表しています。さらに「結束」を表現しています。

ロゴマークの中央は「目」を表しており、ろう者が視覚中心の生活を営んでいることを示しています。また、赤色、青色、黄色、緑色はアジア太平洋、ヨーロッパ、全アメリカ、アフリカと4つの地域連合を表現しています。



デフリンピックの競技

デフリンピックは2008年現在、夏季19、冬季5、合計24競技を採用しています。採用基準は国際ろう者スポーツ委員会のデフリンピック規則に定められています。

夏季大会の競技

陸 上	バドミントン	バスケットボール	ビーチバレーボール	ボウリング
自転車	サッカー	ハンドボール	柔道	空手
オリエンテーリング	射 撃	水 泳	卓 球	テコンドー
テニス	バレーボール	水 球	レスリング	

冬季大会の競技

アルペンスキー	クロスカントリースキー	スノーボード	カーリング	アイスホッケー
---------	-------------	--------	-------	---------